

日韓共同理工系学部留学生のフォローアップ調査
—千葉大学に配置された第1次第1期生～第2次第6期生を対象に—

佐藤尚子

Japan-Korea Joint Program for Science & Engineering Students
Follow-up Survey of 2000-2015 Students

Naoko Sato

要旨

千葉大学では2000年10月より日韓共同理工系学部留学生を受け入れている。2016年6月に千葉大学で日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催されるのを機に、千葉大学に配置された第1次第1期生(2000年10月渡日)から第2次第6期生(2015年10月渡日)までの69名を対象にフォローアップ調査を実施した。調査は、大きく2つに分かれる。1つは全員を対象とした、このプログラムへ参加した理由、千葉大学での教育に対する評価、日本への留学に対する評価についての調査である。もう1つは、学部を卒業した学生の進路と現在の状況に関する調査である。評価については、全体として、千葉大学での教育、および、日本への留学に満足している学生が多いことがわかった。また、進路調査では、大学院修了後、韓国に帰国している学生が多く、日韓の架け橋として、活躍している学生の様子が明らかになった。

Abstract

Chiba University has admitted Korean students under the Japan-Korea Joint Program for Science & Engineering Students since October, 2000. The symposium on the program, which was hosted by Chiba University in June, 2016, created an occasion to assess the program through a follow-up survey of its 69 participants, who were allocated to Chiba University between 2000 and 2015. The 1st part of the survey focused on the reasons the students decided to participate in the program, and on their assessment of education at Chiba University as well as of the study in Japan in general. The 2nd part of the survey dealt with the students' career after graduation from Chiba University including their current situation. The survey has shown that the participants were generally satisfied with study in Japan and the education they received at Chiba University, and that many students who undertook graduate studies a later returned to Korea and remain active bridging between the two countries in relevant areas.

1. はじめに

1998年10月に金大中大韓民国大統領（当時）が訪日した際に、日韓両国の首脳により発表された日韓共同宣言で青少年交流の拡大が謳われ、その具体策として韓国から日本の大学の理工系学部に留学生を送る計画が盛り込まれた。そして、2000年に日韓共同理工系学部留学生事業が始まった。これは、毎年、韓国人留学生100名を日本の大学の理工系学部で受け入れるプログラムである。

千葉大学では、第1次第1期生より毎年2～6名の学生を受け入れてきた。2016年6月に千葉大学で日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催されるのを機に、第1次第1期生～第2次第6期生69名を対象にフォローアップ調査を実施し、協議会で報告した。

本稿は、フォローアップ調査の主要な項目の結果をまとめたものである。調査は、大きく2つに分かれる。1つは全員を対象とした、このプログラムへ応募した理由、千葉大学での教育に対する評価、日本への留学に対する評価についての調査である。もう1つは、学部を卒業した学生の進路と現在の状況に関する調査である。

2. 千葉大学に配置された学生の人数と進学先

この事業により千葉大学に配置された人数と進学先は表1のようである。

表1 配置人数と進学先

		配置 人数	性別		進学先	
			男	女	工学部	理学部
第1次 ◆2000年 10月～ 2009年 10月に 渡日	第1期生	4*	0	4	4	—
	第2期生	5*	4	1	5	—
	第3期生	3	1	2	3	—
	第4期生	5	4	1	4	1
	第5期生	4	4	0	3	1
	第6期生	3	1	2	2	1
	第7期生	2	1	1	2	0
	第8期生	3	1	2	3	0
	第9期生	5	3	2	4	1
	第10期生	5	4	1	3	2
第2次 ◆2010年 10月～ 2015年 10月に 渡日	第1期生	5	4	1	4	1
	第2期生	3	3	0	2	1
	第3期生	5	5	0	3	2
	第4期生	5	4	1	2	3
	第5期生	5	5	0	5	0
	第6期生	6	5	1	4	2
計		68	49	19	53	15

*第1期生1名、第2期生1名は、学部進学後、進路変更等により退学した。

第2期生1名は5年次まで在籍し、最終的には除籍になった。本学生は、帰国後、医師になっている。

3. フォローアップ調査の結果

3.1 フォローアップ調査の概要

フォローアップ調査を以下のように実施した。

調査対象：第1次第1期生（2000年10月渡日）～第2次第6期生（2015年10月渡日）
（69名）

調査期間：2015年9月～2016年5月

回答者数：59名（学部卒業生30名* 学部在学者29名）

*学部卒業者に除籍になった1名を含む。

前半の日本への留学についての応募理由・評価などについては59名の回答を、学部卒業後の進路などについては30名の回答を分析対象とした。

3.2 日韓共同理工系学部留学生事業への応募理由と留学に対する評価などについて

3.2.1 日韓共同理工系学部留学生事業への応募理由

「どうして日韓共同理工系学部留学生事業に応募しましたか」という質問に対して、下記のような回答（自由記述）があった。自由記述をまとめた。

日本に興味があった・日本で勉強したかった：25

奨学金がもらえる・国費留学生になりたかった：21

留学したかった・外国で勉強したかった：12

先輩・友人・高校の先生などの紹介や勧め：8

など

3.2.2 日本語予備教育に対する評価

渡日後、行われる日本語予備教育について「学部で勉強するのに役に立ちましたか」という質問に対して、図1の回答があった。59名のうち51名（86.4%）が役に立ったと回答しており、予備教育の授業内容は概ね問題がないと考える。

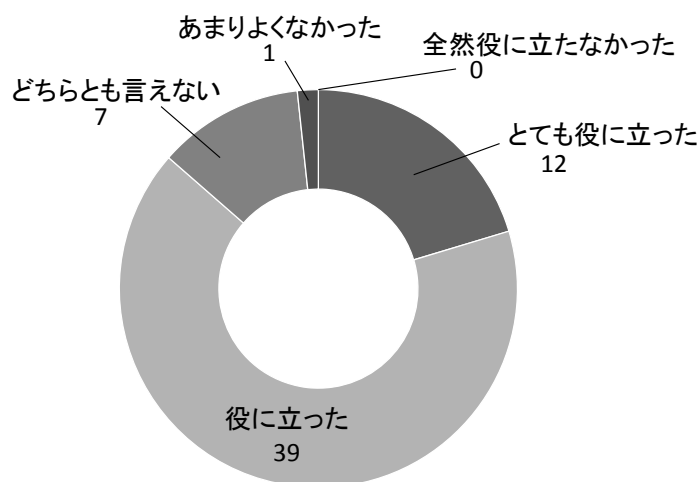


図1 予備教育に対する評価

3.2.3 千葉大学への留学に対する評価

「千葉大学に留学してよかったですか」という質問に対しては、図 2 のように 59 名のうち 53 名 (90%) の学生が「よかった」と評価しており、千葉大学の教育内容に満足していると考えられる。また、千葉大学のよかった点、よくなかった点について、以下のような記述があった。

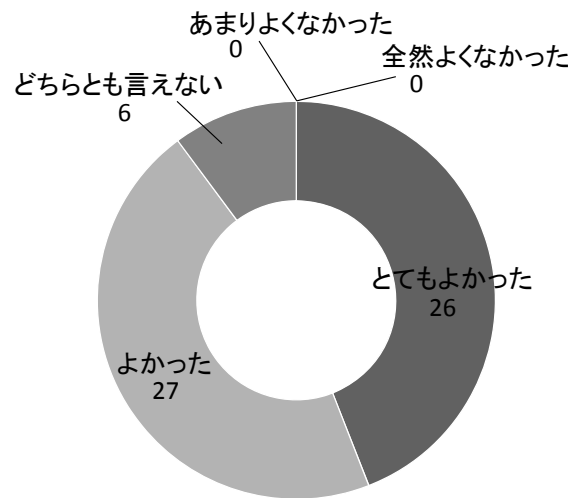


図 2 千葉大学への留学に対する評価

よかった点

千葉大学にしかない専門分野があり、そこで勉強ができた。
 よい先生、よい先輩、よい友人に恵まれた。
 成田空港にも近く、生活がしやすい。
 いろいろな活動ができた。

など

よくなかった点

韓国で大学の知名度が低い。
 英語教育のレベルが低い。
 (初期の留学生) 工学部の建物、図書館が古かった。
 韓国人の友人だけで集まり、日本人の友人ができなかった。

など

3.2.4 日本への留学に対する評価

「留学生生活全体を通して、日本に留学してよかったですか」という質問に対して、図 3 のように、59 名のうち 51 名 (86.4%) が「とてもよかった」「よかった」と回答した。多くの学生にとって有益なものになっていると考えられる。

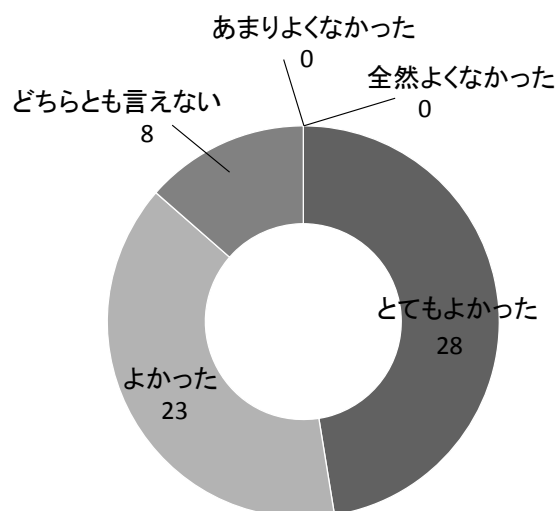


図3 日本留学に対する評価

3.2.5 日本での経験と現在の状況

「日本での経験は、現在でのあなたの状況にどのような影響を与えていますか」という質問に対して、次のような回答（自由記述）があった。

- （卒業生）希望の仕事に就くことができた。
- （卒業生）日本語ができることで就職に有利だった。
- 日本語ができるようになった。
- 視野が広がった。
- なにごとにも恐れず、チャレンジできるようになった。 など

3.2.6 千葉大学の日韓共同理工系学部留学生事業に対する意見・提言

「千葉大学で日韓共同理工系学部留学生事業を行うにあたって、意見や提案があったら、記入してください」という項目には、次のような意見や提言が寄せられた。

- （大学も卒業生も）大学の知名度を上げる努力が必要。
- 他の大学にない分野の研究や勉強ができれば、人材育成に役立つ。
- 専門分野が合わない場合、学科の変更などを柔軟にできるようにしてほしい。
- 卒業生の交流の場がほしい。
- 英語、中国語など学生の語学力を上げるプログラムがあるといい。
- 予備教育の専門科目を学部教育に役に立つものにしてほしい。 など

3.3 卒業後の進路と現在の状況

3.3.1 大学院修士課程（博士前期課程）への進学状況

「大学院修士課程（博士前期課程）に進学しましたか」という質問に対して、回答者 30 名（学部卒業者）のうち 28 名が修士課程（博士前期課程）に進学したと回答した。進学先では千葉大学大学院が一番多く、次に東京大学大学院だった。図 4 に結果を示した。

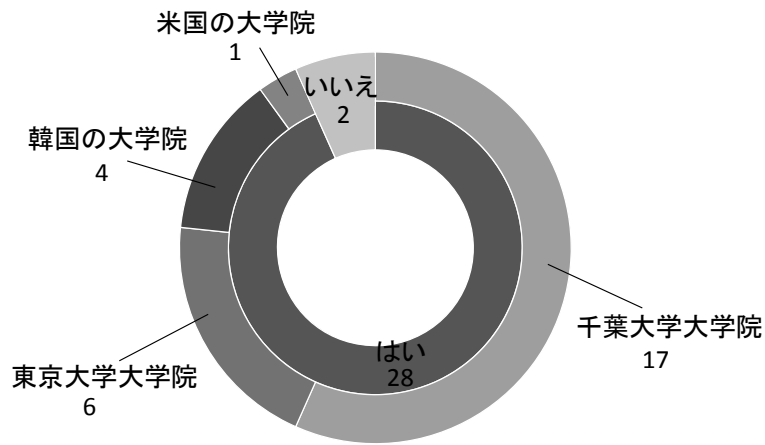


図4 修士課程（博士前期課程）への進学

3.3.2 大学院博士課程（博士後期課程）への進学状況

大学院博士課程（博士後期課程）への進学について質問した。博士課程への進学者は 8 名だった。進学先は、千葉大学大学院 3 名、東京大学大学院 2 名、韓国の大学院 2 名、米国の大学院 1 名であった。

3.3.3 現在の居住地

学部卒業者 30 名に現在の居住地について尋ねた。その結果を図 5 にまとめた。19 名 (63%) が韓国に帰国していることが明らかになった。大学院修了後、多くの学生が韓国に帰国して就職していると考えられる。

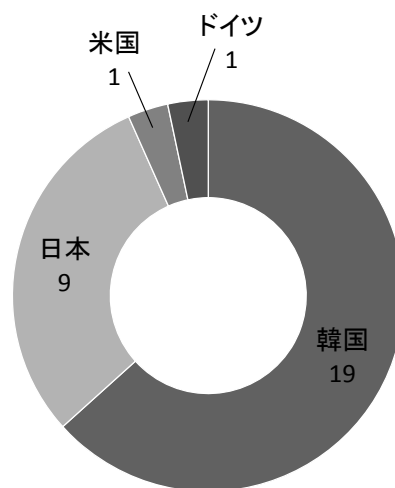


図5 現在の居住地

3.3.4 現在の職業について

現在、ついでいる職業について、学部卒業者のうち、大学院在学者を除いた25名から回答を得た。結果を図6に分野別にまとめた。専門を生かし、「通信・IT関連」分野や製造業で職を得て、その能力を発揮している様子がうかがえる。勤務先での身分は一般社員11名、研究者・教員9名、その他5名だった。

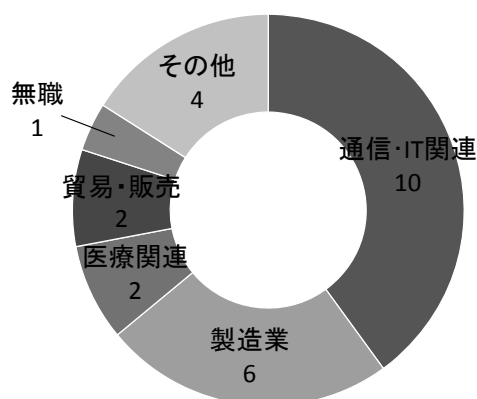


図6 現在の職業の分野

3.3.5 仕事や研究での日本語の使用状況

学部卒業者30名に「現在の仕事や研究で日本語を使いますか」と尋ねたところ、回答は次のようだった。図7に結果をまとめた。

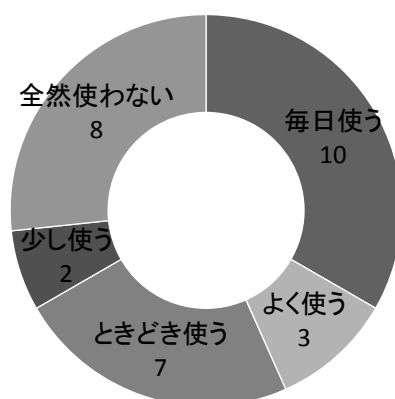


図7 日本語の使用状況

「毎日使う」と回答した人は、日本の企業・韓国の日系企業に勤務している人と日本の大学院在籍者だった。「よく使う」「ときどき使う」と回答した人は、韓国企業にいる日本人社員との会話、日本支社との連絡、日本への出張時、日本語の論文を読む場合に使うと回答している。

3.3.6 兵役について

兵役について男子在学学生・学部卒業生 38 名に、兵役に行ったかどうか、行かなかった場合の理由について質問した。結果を図 8 に示した。

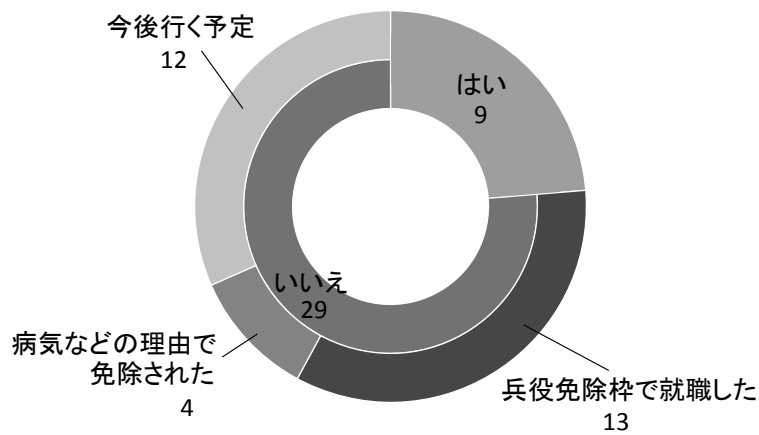


図 8 兵役について

兵役に行った人は 38 名のうち 9 名 (23.7%) だった。行かなかった人、行っていない人は 29 名で、内訳は兵役免除枠で就職した人 13 名、免除された人 4 名、今後行く予定の人が 12 名だった。

日韓共同理工系学部留学生事業では、長い間、学部在学中に兵役に行くために休学することが認められていなかったが、変更があり、千葉大学では、2012 年度より兵役休学が可能となった。千葉大学で兵役のために休学した学生の人数は表 2 のようである。

初期の学生たちは兵役休学が認められていなかったこともあり、兵役免除枠で就職するケースが多かったが、今後は、在学中に兵役に行く学生が増えると考えられる。

表 2 兵役による休学者

兵役休学期間	人数
2013 年 4 月～2015 年 3 月	3
2014 年 4 月～2016 年 3 月	2
2014 年 10 月～2016 年 9 月	1
2015 年 10 月～2017 年 9 月	1
2016 年 4 月～2018 年 3 月	2

4. 終わりに

留学に対する評価では、全体としては千葉大学での教育、および、日本への留学に満足している学生が多いことがわかった。また、進路調査では、大学院修了後、韓国に帰国している学生が多く、日韓の架け橋として、活躍している学生の様子が明らかになった。

今回の調査により、多くの卒業生の連絡先がわかった。2016年9月にソウルで開催された日韓共同理工系学部留学生事業留学推進フェアへの参加のため、筆者を含め千葉大学の教員5名が訪韓した。その際、卒業生8名と会食を行った。日本語で、現在、担当している仕事や家族のことを雄弁に話してくれたのが、大変印象的だった。

これを機会に、さらに充実した教育ができるように、教育内容のチェックを行い、また、卒業生どうし、あるいは、学部在学中の学生と卒業生の交流を増やし、有益な日韓共同理工系学部留学生のネットワークが築けるように努めたいと考えている。

謝辞

今回の調査を行うにあたり、千葉大学学生部留学生課より多大な協力を得ました。厚く御礼申し上げます。

参考文献

太田亨（2006）金沢大学における日韓共同理工系学部留学生事業に対する中間報告、金沢大学留学生センター紀要、9、pp.61-72.

佐藤尚子・東田喜輔（2007）千葉大学における日韓共同理工系学部留学生事業修了生に関する調査報告—1期生～3期生を対象として—、国際教育、1、千葉大学国際教育センター、pp.67-78.